

公益社

団法人

東京都介護福祉士会

N

E

W

S

2021-11-07

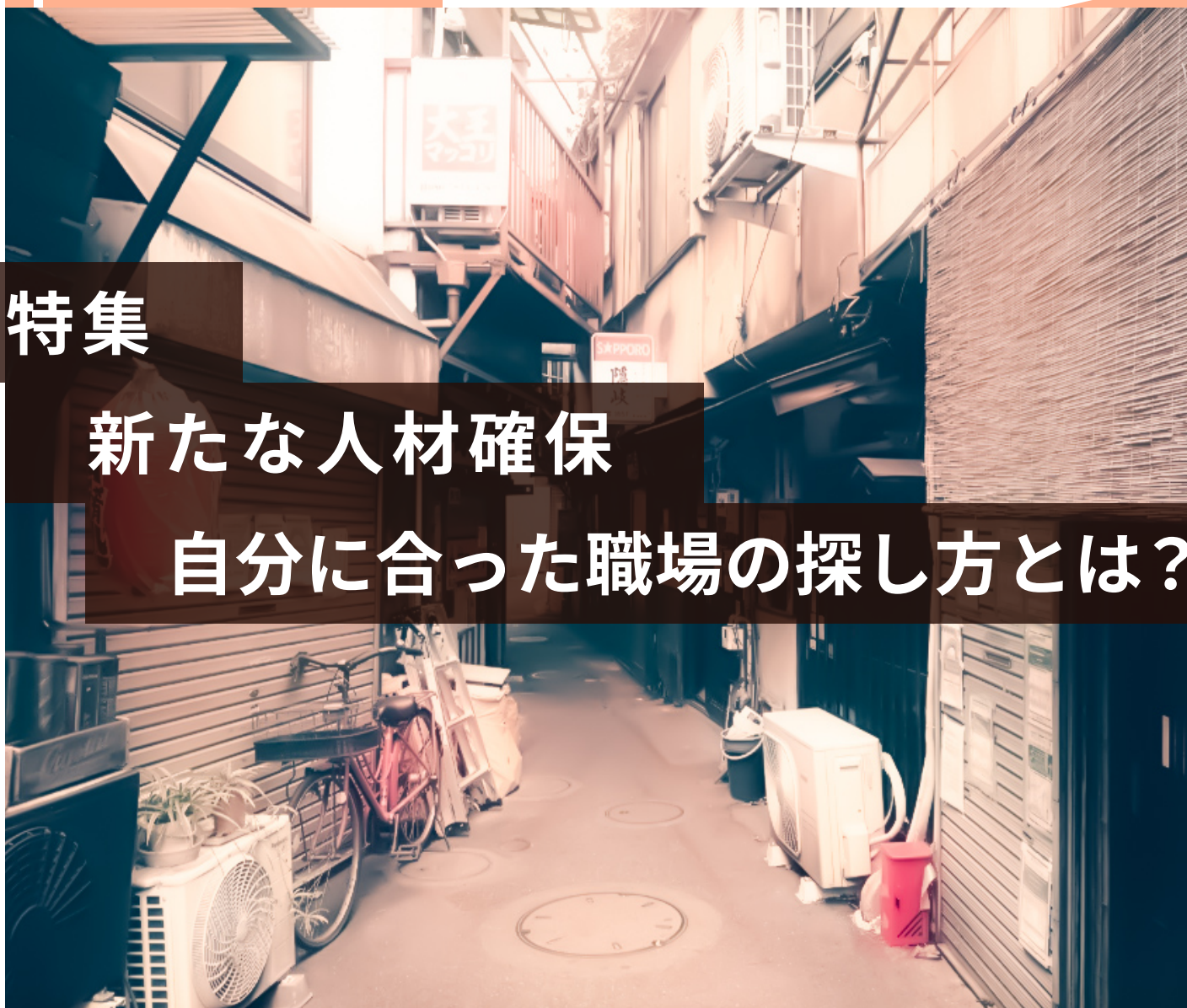
141号

- ▶ P1 巻頭言：介護福祉士の活躍の場とは？
- ▶ P3 特集：新たな人材確保、自分に合った職場の探し方とは？
- ▶ P9 研修報告：あしたから使えるフットケア研修に参加して
- ▶ P11 会員の声：現職と介護の人材育成への思いやこれからについて
- ▶ P12 ご利用者の作品紹介
- ▶ P14 新広報部員のご紹介
- ▶ P15 スキルアップ&インフォメーション・編集後記

特集

新たな人材確保

自分に合った職場の探し方とは？



巻頭言

介護福祉士の活躍の場とは？



東京都介護福祉士会理事
小幡真也

理事として2期目を迎え今感じることは、「介護福祉士には活躍する場所がたくさんあるということを知らない介護福祉士がたくさんいる」ということです。これは実働で働く場所という意味ではありません。介護福祉士としてのキャリアアップができる場所が様々なところにあるということです。ご存知の方も多いとは思いますが、キャリアアップの考え方として、①高い給料・高い地位を求めて転職する事、②自分の特定の分野で専門知識やスキルを向上させて、自分の経歴を高める事があると思います。今回は②の自分の経歴について述べたいと思います。

日本介護福祉士会には生涯研修制度として、介護福祉士を取得後に①介護福祉士基本研修②ファーストステップ研修③認定介護福祉士養成研修の3つがあることはご存知かと思います。では、自職場

皆様こんにちは。東京都介護福祉士会理事の小幡です。現在理事としては2期目を拝命させて頂いております。ここ最近の私的な思いをつづりたいと思います。最後までお読みいただければ幸いです。

でこれらの研修を修了した人がどのようにキャリアアップをして行くのでしょうか？もちろん昇格の要件になっているところもあろうかと思いますが、そのポストが空席にならないと昇進できない事実があると思います。

また、職場内のヒエラルキーによっては介護福祉士と介護職の違いがないといったお話しも良く聞きます。自分の時間とお金を使ってせっかく取得した資格や研修で身につけた知識が活用できない状況では、ご自身のキャリアアップにはなかなかつながらないのではないかと考えております。

では、私達介護福祉士がキャリアアップする上で必要なものとは何でしょうか？私は冒頭でも申し上げたように活躍する場が必要であると思います。例えば介護保険のしくみの中で、ご利用者の介護度の決定する介護認定審査会があります。この会のメンバーは

図①介護福祉士が活躍できる場の一例

区市町村
の審査会

研修講師

多職種
との連携

行政との連帯

後輩の育成

事業所の垣根
を超えた連帯

東京都介護福
祉士会の運営

会の各部会
での活動

研修の運営
への関わり

医師・看護師・保健師・社会福祉士・介護福祉士などの専門職が4名程度の少人数の合議体で2次判定を行っています。生活の困りごとや身体的な困りごとに対し、介護度の判定をするというとても重要なポジションに私たち介護福祉士が関わることができます。もちろんご自分の職場の理解と、ご自分の時間を使って行うということを考えるとメリットとデメリットはあるかと思いますが、但しやってみたいと思う方にはとても有意義な活躍の場になるのではないのでしょうか？図①には介護福祉士が活躍できる場の一例を挙げてみました。これらの活躍の場にはどのようにすると参加できるかを案内できることが、職能団体の

大きな役割だと今は思っております。しかし私は理事になる前まで「介護福祉士の資格や立場の向上というのは国や偉い人がやってくれる」と他人事のように思っていました。ここで図①の後輩の育成について少し考えてみますと、次の介護福祉士を育成するのは今の若手の介護福祉士です。今中堅と言われている介護福祉士は、その若手介護福祉士を育成する必要があり、ベテランと言われている介護福祉士は、今の中堅層に自分たちの役割を引き継いでもらう必要があります。このことは自職場の新人育成やキャリアアップにもつながりますので、どのように育成していくのか？その育成方法はどの様なものがあるのか？これらを私たちは身につける必要があると言

えます。育成方法などの知識は研修で知ることができますが、その研修を運営するためには事務局・講師・運営サポートなどの役割が必要です。その企画を検討決定する役割も必須です。職能団体というのはこれらの流れを共に作り、共に進めていながら私達の立場を維持向上する団体なのだと考えられませんか？ 私達介護福祉士の主人公は私たち自身です。その主人公が

他人事ととらえているストーリーは果たして面白いのでしょうか？現状を変えるためには私達介護福祉士がほんの少し自分事として捉えて、一歩踏み出してみませんか？その一歩が活躍する場に参加する事だと思います。ほんのちょっとでもいいんです。月の1日や1時間でもいいんです。ご自分の状況に合わせて会の活動に参加してみたいという方はぜひ会にお問い合わせください。

特集

新たな人材確保・自分に合った職場の探し方とは？

今、日本の人口が減少している中、働ける人数も減少していく未来が予想できる。その中で各企業や業種で働ける人の奪い合いが始まるだろう。しかしながら近年、介護人材に対する様々なサービスが展開されており、その一つが、介護の人材シェアリングサービスである。その利用者は、介護福祉士、介護従事者のみならず、介護業界に興味がある人、介護に今まで携わったことのない人まで様々だ。そして、その利用目的も人それぞれ。そこで、今回は、インタビュー取材を通して、それぞれの魅力と活用方法等を伺い、介護福祉士としての働き方を考える一つのきっかけになればと考える。

介護のお手伝いができるスキルシェアサービス



株式会社プラスロボ 代表取締役 CEO 鈴木亮平

- ▶ 運営会社：株式会社プラスロボ
- ▶ 代表取締役 CEO：鈴木亮平
- ▶ 登録利用者：約 3000 名

起業したきっかけはどのようなものだったのでしょうか？

もともと東洋大学の社会学部で勉強していました。自分で起業したいという思いはありましたが、この世の中は便利な物があふれていて、そのリニューアルしているビジネスモデルがあります。一方で「このままでは人が生きづらくなる」というような問題は割と放置されていると感じていました。9割9分9厘仕事人間になるであろうと思っていましたので、人生に直結するような、つまり一番根深い社会問題をやるべきだと思いました。2025年に介護職員が不足していき、更に働く人数が減って行くという現状と、このままのペースで介護職員が増えて行っても厳しい現実があることを知りました。「国が何とかしてくれる」ではなく自分の一生の仕事として福祉インフラを整備したいという思いに至りました。

大学を卒業した後、3年間は雑誌の記者として従事し、色々な社会勉強をさせて頂く中、介護ロボット等の取材もさせて頂き、福祉インフラを整備するためには介護ロボットしかないと考えていました。それが社名のプラスロボになっているのです。1年間ほど現場の見学をさせて頂く中、ロボットだけではどうしようもない部分があることに気づきました。福祉の現場は単純に生産性や効率性を上げるものではなく、ホスピタリティの「人」がサービスの本質であることに気づきました。現場でレクリエー

ション系のロボについて尋ねたところ「そういうところに私たちは関わりたい」という声に感動しました。

200年後はわかりませんが、現在のテクノロジーで感情的な部分やホスピタリティを補えるロボットはありません。やはり人が重要だと考えています。コロナが落ち着いたとしても、人口減少は変わりません。つまり生産労働人口の分母が減っているのに、全産業で人の奪い合いが始まっていると思います。その中で正社員・パートというような人の集め方だけではなく、自分の空いている時間やスキルを1か月の中でほんの少しの時間をシェアし合える仕組みになると少し変わるのではないかと思います。つまり参加者の間口を少しでも開いて、働く人の分母を広げたいという思いになりました。福祉業界は生産性や効率化や標準化という流れに生きづらさを感じている人たちを支援していくという考えが有るならば、全く違うアプローチがあるのではないかと思います。私がスケッターでやりたいことは、互助インフラや地域コミュニティのような発想です。昭和のあの頃のご近所付き合いのようにお互いが助けていける、お節介ってある意味の福祉のインフラだったのではないのでしょうか？今は現実の人とのつながりや、地域の中での緩やかなつながりというのは希薄になりました。お金があれば何でも外注できる世の

中にはなりました。今の時代にあったやりかたを考えながら、地域に家族的なシステムを創造したいと思っています。今は福祉・高齢施設や放課後デイを中心にしていますが、中長期的にはマンションの中で個人宅に行けるスケッターやスケッターの仕組みを作りたいと思います。高島平の方で100円御用聞きというシステムがあります。スケッターも有償ボランティアのくりです。無償でやってあげる、やってもらうという関係ではなく、「お気持ちだけでも」という所で、助け合いができる環境になればいいなと思います。

■ そもそも社会学部を受けた理由はありますか？

ジャーナリズム学科に入りたくて社会学部を受験しました。高校生の頃にはジャーナリストになりたくて。いろいろあって2025問題がきっかけで今がありますが、介護の世界というのは知ろうとしなければ関わらない世界だと感じています。情報が少ないのでどのような業務があるかわからないことが多いです。医師や看護師は、自分が風邪などを引いたときに関わるので仕事内容がわかります。介護ってそのような関わりを持つときは、身内の誰かが要介護状態になった時というのが、ある意味特殊な仕事だと思います。だから他人ごとにしてしまう人が多いと考えています。スケッターはお話し相

手の募集や得意なことをしながら、介護の世界を知るきっかけになってほしいと思い、学生に声をかけているところです。高校生や大学生にスケッターとして介護施設に行った人の話を聞くと「思っていた事と違った」というリアクションがあります。その中から介護に興味を持って仕事につく人もいるでしょうし、少しだけ関わりたいという人もいるでしょう。介護の事は介護で考えてということではなく、その地域資源を活用するというキーワードになると思います。

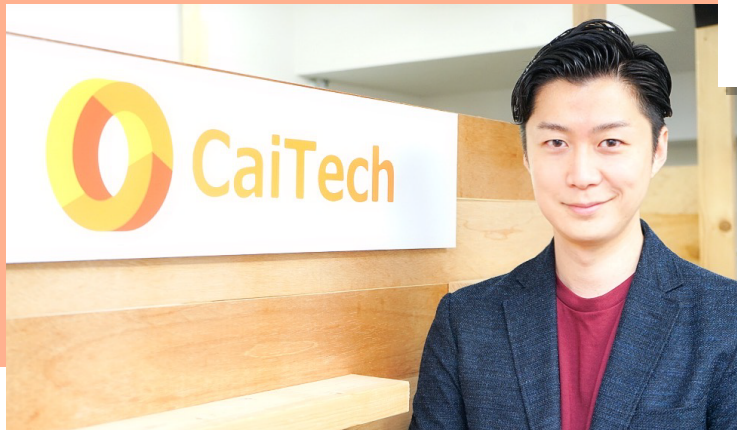
■ 学生の頃から介護に触れていく事はとても大事ですね。昔からボランティア等の情報はありましたが、中々情報が届かないという部分がありました。

スケッターの仕組みはその情報をわかりやすく共有できる仕組みを目指しています。川崎の社会福祉協議会様と連携して情報の発信と情報の登録について協議しています。現在登録者は3000人程度です。その中で資格を持っていないと入れないというように思っていた人や、ボランティアすらしてはいけないと思い込んでいた人もいらっしゃいます。SNS等のメディアサービスが主流ですので、学生がどのように情報を得ていくのかを配慮する必要があります。また職場の雰囲気を知る事や、転職前の情報収集や、見聞を広める為という形でもご利用頂いている方も多く在籍しております。

最後になりますが、今後の展望をお教えていただけますか？

もっと学生に対しアプローチをして情報の発信をしていきたいと思います。そうすると、学生と施設がつながる可能性が高くなります。長期的には学生だけではなく、何かしらの形で福祉に関わる「一億総福祉人」という世界になるといいなと思っています。専門職として働くことも福祉人ですが、例えば電車で席を譲るという行為や、白杖を持っている人に声をかけるという行為は、資格を持ってなくてもできる福祉だと思います。昔にできていたことを当たり前のように少し気に掛ける地域が増えていけばいいかなと思っています。

「カイスケ」有資格者のための介護シェアリングサービス



カイトク株式会社
代表取締役 武藤高史

- ▶ 運営会社：カイトク株式会社
- ▶ 代表取締役：武藤高史
- ▶ 登録利用者：約 5000 名

起業したきっかけは、どのようなものだったのでしょうか？

大学と大学院ではロボット工学を専攻し、医療に関連した IT 企業に勤めていました。企業するに至った背景は、祖母と起業家であった祖父が二人とも介護が必要になったことにあります。最初は家族が自宅で介護していましたが、両親も共働きのため仕事と介護の両立は想像以上に難しく、介護付き有料老人ホームへ入所してもらうことになりました。私はそこで実際の介護の現場に触れました。自宅介護の経験から「大変な仕事」とは認識していたのですが、

それ以上になんて尊い仕事なんだと感動したのです。というのも、祖父母ともに本当に本当にお世話になり、亡くなった際には葬儀にも参列してくださり、涙も流してくださいました。この体験から端を発し、介護の制度やサービスの多さやその内容にも興味を持ちました。介護サービスを利用している間は、私たち家族より介護職の方が、祖母の様子をととてもよくご存知です。祖母は最期の時間を介護職の方々と楽しく穏やかに過ごしていましたし、その時間を大切に接してくれた介護職を心から尊敬しました。そこで2018年、介護業界の課題と需要がブラックボックスではなく、しっかりと見える化されたシステム作りができる会社を目指して、「カイテク株式会社」を起業しました。

■ 起業ビジョンは、どのようなものですか？

カイテク株式会社は、日本が抱える社会課題を解決する社会貢献性の高いビジネスの展開を目指して創業しました。ますます深刻化する少子高齢化に伴う労働人口減少の是正やエッセンシャルワーカー人材の不足といった緊急度の高い難問に向け、介護業界に軸足を置き、テクノロジーを活用した課題解決に取り組んでいます。

■ テクノロジーを使ったこのサービスが広がっていくと、介護は今後どのように変化していくと考えますか？

当社のHPでもトップに掲げているのですが、「テクノロジーで介護現場の笑顔を増やす。職員も責任者、運営者、ご利用者の笑顔につながっていく」と考えています。人材確保の問題は、このシステムを使用することで、必ず前進していく。後進することはない。だから一日も早くサービスの利用エリアを全国に拡げていきたいです。日本中でお困りの現場の方々や介護の有資格者の皆様が、便利に、そして安全にご利用いただけるようなサービスになるため、さらに各種機能を強化し、より使いやすく、より有益な価値を提供できるようにしていきたいと思っています。

■ サービスの優位性はどこにありますか。

現在、実際のシェアリングの仕組みは、1事業所で数名から数十名を雇用していると思います。しかし、当社が考えているコネクテッドワーカー構想では、1事業所で、コアメンバーは数名で固定。その他に数十名から数百名をコネクテッドワーカーとして雇用し、いつでも必要な時に助けに来てくれる。そんな体制が取ればお互い

Win-Win ですし、ここが当社のサービスの提供できる大きな価値の部分だと思っています。例えば、コネクテッドワーカーは、求人に応じ込むとその場で即時にスケジュールが確定できるので、自身のスケジュール管理がしやすいといったメリットがあります。そして業務が滞りなく実施されれば、すぐにカイスケウォレットに入金され、最短で即日、現金として銀行口座に振り込まれるため、即効性の高い労働力活用ができます。また、一つの事業所だけではなく様々な事業所で様々な経験を積むことができるので、スキルやノウハウの習得も可能になります。もちろん、ご自身のスキルを伝授することで、より介護業界の品質向上に貢献することもできます。案件業務が終わると、企業側とワーカー側が双方に総合評価をつけることができます。介護は評価が可視化されにくいと言われてはいますが、それでも人は自分の働きや貢献を評価されたいと考えるものです。当社のサービスでは、チャート（時間、遂行、スキル、コミュニケーション、挨拶）を使い、点数として見える化しており、既に多くのワーカーさんから、「やりがいもあるし、嬉しい」という声をいただいています。ちなみに、事業所評価は詳細に行い、その事業者はその評価を使用し、改善していくことにも当社は力を入れています。そのほかに工夫した設計としては、コミュニケーション方法としてLINE等のように、直接メッセージがやり取りもできますし、勤怠管理はQRコードを使用して行っています。

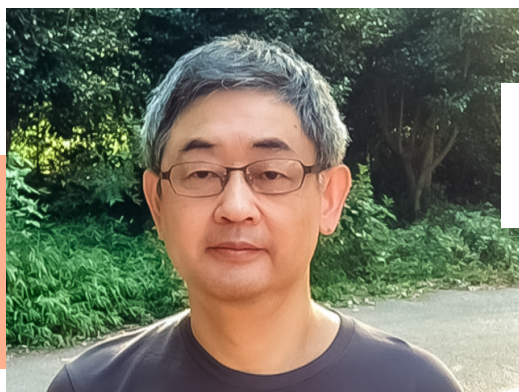
ユーザーの方々の声は、
どのようなものがありますか？

当社をご利用者くださった方に「介護がしんどい。なんでしんどいかわからない」という方が、カイスケ利用し、新しい視野が開けて、介護業界から離れることを思い留まった方もいらっしゃいます。その他にも、「固定曜日で連続勤務は無理。でも、単発だと利用できるからありがたい」「たまたまカイスケを見つけた。今はすぐに使うことはできないけれど、サイトを見ているだけでも楽しい」「介護職視点の素敵なサービス」「主婦をしているが、育児の隙間時間にできるところが良い」「人間関係など悩むこともなくて良い。プレッシャーの部分が少なく、気軽にできるので良かった」などのコメントもいただいています。定年退職前後の方も多くご利用いただいています。「ちょっとだったら、本当は介護現場に入りたい」そんなニーズにもお答えできていると思っています。カイスケの活用方法には収入確保としてだけではなく、「通常は一つの法人で働いているが、その法人の介護方法だけしか知らないの、他の事業所へ行き、様々なケアのやり方(技術)を見てみたい(知りたい)」「自分の行っている介護方法が本当にあっているのか間違っているのかを確認したい」という方の利用も目立ちます。このようなスキルやノウハウの流通が行われていけば、もっと介護業界は発達していくはずで、せつかく介護業界には素晴らしい技術があるのですから、このカイスケを通じてもっとその技術が広がっていったらと思います。

あしがき

長く介護職を続けていると、自分が行っている介護内容が正しいのか間違っているのか、判断が難しくなることがある。そして、経験年数を積みば積むほど、間違った判断をしていても、それを指摘してくれる人が少なくなることが多い。それは、介護業界だけではないかもしれないが、人の命に係わる仕事であるがゆえに、自分の行いの答え合わせをしたいという介護職員は多い気がする。視野をひろげる・新しい技術を身につけるためには研修等を受けるだけでなく、こういったサービスも併用することで、生の学びも自分に合った職場探しもできる。その学びが実際の現場から学びとれるものであれば、すぐに活用できる新たな学びの方法になるのではないか？ 介護には答えがない。介護職とはその答えを探し続ける仕事なのかもしれない。

研修報告：あしたから使えるフットケア研修に参加して



東京都介護福祉士会・会員
泰樂正

9月6日（月）に「あしたから使えるフットケア」の Zoom 研修を受講させて頂きました東京都小平市の老健に勤務しております泰樂正と申します。

施設の利用者の多くが何らかの足、足爪に問題を抱えており特に肥厚爪や外反母趾などの趾の変形を日々目にしています。以前、山梨県介護福祉士会でのフットケア研修も受講しましたがそれ以降、介護職員向けのフットケア研修の開催に巡り合うことがなかったため、今回の研修はとても貴重な機会と考え受講いたしました。

施設の利用者の多くは、ADL の高い方でも歩行動作に全く不安がないという方は少なく、

誰しも何らかの不安を抱えています。爪や趾の変形などによる痛みなどから長い距離の自立歩行ができず、車椅子使用となっている方もいます。今回、高齢者にとってのフットケアの重要性について改めて学ぶことができました。

今回の研修では「介護におけるフットケアの意義」「足に起こる老化とその予防」「危ない足ってどんな足？」「実際のフットケア手技」といった内容で専門的知識を持つ講師の方からお話を聞くことができました。

日々目にする利用者の足は肥厚爪や趾の変形が目につきますが、そればかりではなく足底のアーチの減少などといったあまり気づきにくい変形や浮腫に関する原因や対応の仕方、糖尿病の方の足の病変などについてもより広く深く触れることができました。私が勤務する施設に、特に目立った問題もなく自立歩行ができるのに必ず立ち上がり時に痛みを訴える方がいますが、今回の研修受講後にOTに確認してみると、やはり足底のアーチがあまりないということがわかりました。変形などからくる痛みだけでなく、筋力の低下や足底のアーチの減少からも、足全体への影響により痛みがでることを知ることができました。後半では実際のフットケア手技の動画も特別に公開して頂きました。また、足や歩行に関する書籍や介護現場でも使えるフットケアの用具の紹介などもして頂きとても参考になりました。

糖尿病の方のフットケアなどは医療の範疇となり介護福祉士では対応できないケアではありますが、足の病変はちょっとした気づきの欠落から切断に至ることなどを知ると、日々利用者と接している介護福祉士の気づきの重要性を再認識しました。

人間にとって長い間身体を支えてくれる足、耐用年数を超えても頑張ってもらうためにも大切にしなければと思います。「足には耐用年数がある」講義のなかで印象に残った言葉のひとつです。

／ 危ない足ってどんな足？ ／



会員の声

現場と介護の人材育成への思いやこれからについて



東京都介護福祉士会・会員

貞静学園短期大学 講師 久保吉丸

私は、この春より東京都文京区にある貞静学園短期大学という介護福祉士養成校にて講師として勤務しています。介護福祉士を志したきっかけは、高校生の時に祖父母に何かできることがないかと考え、神奈川県川崎市にある田園調布学園大学という介護福祉士養成校に入学しました。卒業後、訪問介護、介護老人保健施設、通所介護の介護現場にて延べ9年間介護職員として勤務してきました。その間、北欧の社会福祉を自分の目で見てみたいという想いでデンマークへ3か月間短期留学しました。その後、介護労働安定センター神奈川支所という組織に転職し、兼職で母校の同大学にて非常勤講師として勤務後、国会議員の公設秘書、神奈川県大和市にある介護老人保健施設の事務長職勤務を経て現職に至ります。学生時代、主に「在宅介護について」をテーマに学習しました。指導して

いただいた恩師は、いつも忙しそうにご利用者のご自宅を訪問して日夜ケアマネジメントに奔走していて、その姿が学生である私にとってとても印象的でした。学生生活の中で、先生は身体障害のある方々との一泊付き添いボランティア旅行を企画してくれました。この旅行に参加させていただいた経験が、私の今日の介護福祉士としての考え方に大きな影響を与えてくれたと思います。社会人となり介護職として勤務して以降、ご利用者をはじめ様々な出会いがありました。訪問介護員として勤務していた際、あるご利用者のお宅での出来事です。毎回、入浴介助が終わると、記録を書く間にご利用者、ご家族とほんの5分程お話しする時間がありました。私が人事異動によりその日の訪問が最後となる日、ご利用者から「よしまるさん、この本あげるよ。今後仕事していく中できっと役に立つと思うよ」と言われました。それは、介護とはあまり関係のない様な経営やマネジメントという分野の著書でした。本来、物の授受は禁止されていましたが、訪問が最後ということもあり上司へ相談の上、私はありがたく本を頂くことにしました。この時の私は、この7年後、自分が執筆する研究論文で、この本を引用するとは全く考えていませんでした。介護老人保健施設を退職し、短期留学をした理由は学生の時に受講した授業で「幸せな国があるよ」とデンマークを紹介してくださった先生の言葉が頭の中に

ずっと残っていたからです。この留学を機に介護教育の重要性を感じ、介護職員を養成する仕事を指そうと思いました。夜間訪問介護をしていた時、部品メーカーの会社経営をなさっていたご利用者から「私の仕事はモノづくり、あなたの仕事はヒトづくりだ」と言われたことがあり、この言葉が今でも心に残っています。「介護の人を育てるのなら、政治のことも勉強してみたらどうか？」と学生時代からお世話になっていた先生が声をかけてくださったことがきっかけで、国会議員の秘書という貴重な経験をさせていただきました。振り返ってみると、様々な人との出会いや一見介護と関連のない

ような出来事一つひとつが、介護福祉士としての「人と関わる」「人と関わりたい」という自分の気持ちを養ってもらった様に思います。人との関わりが自分に影響を与えてくれた様に、学生や介護を目指す方々に介護の仕事に対する魅力を感じてもらえる様に発信して、これからも出会いを大切にしていきたいと思っています。そしてこのような精神を柱に、実務経験に即して、高齢社会が益々進み介護職員が幅広く必要とされる時代に貢献できる広い視野と適確な技術や知識を身につけた人材をより多く育成していきたいと思っております。

ご利用者の作品紹介

「地域密着型通所介護キーステーション&KEY STATION café」さんより、こんな素敵な写真が届きました。宝石石鹸を制作し、地域の方にお渡しする活動で、アフターコロナをみんなで乗り切る取り組みを行っていらっしゃるそうです。素敵なお写真、ありがとうございます。

みなさんからの投稿写真、お待ちしております♪





会員の方からの投稿募集

会員の方にも広報誌の作成に参加いただきたいという思いにより、以下の投稿をお待ちしております。今後も継続して募集いたしますので、「ぜひ、掲載したい!」というお写真がございましたら、ぜひ事務局 Email アドレスまでご送付ください。

- ・ご利用者の作品
- ・こんな素敵な場所を見つけました

- 注**・募集頂いた作品の写真データは、ニュース掲載にのみ使用させていただきます。
- ・掲載が決定いたしましたら、こちらよりご連絡いたします。
 - ・ご利用者の作品に関しては、プライバシーへの配慮をよろしくお願い致します。
 - ・営利目的のものは、ご遠慮ください。

新広報部員ご挨拶



東京都介護福祉士会 広報部
篠塚真一

この度東京都介護福祉士会の広報部で活動させて頂く事になりました。広報部での活動は初めてですが、活動を通して自分が体験をした事を少しでも皆様にわかりやすく、そして興味を持って読んでいただけるように、工夫をしながら取り組んでいきたいと思っております。何より自分自身が広報等を経験したことがなく、不安な気持ちもありますが、「楽しむ」事を心掛けながら活動に参加したいと思います。よろしくお願いいたします。

スキルアップ&インフォメーション

公益社団法人東京都介護福祉士会研修などのお知らせ



研修名	実施日程	会場	募集等	定員	受講料等
①令和3年度介護職種の技能実習指導員講習(2回目)	令和3年 12月18日 (土)	貸し会議室 内 海 本館・東京学院 ビル 3階教室	令和3年 10月25日 (月)～ 11月22日 (月)	40名	無料
②介護福祉士実習指導者講習会(2回目)	令和4年 1月10日(月・ 祝)～1月31 日(月) のうち4日間	ちょうふたづくり	募集開始	30名	日本介護福祉士会 員 23,000円 非会員 39,000円
③令和3年度介護福祉士ファーストステップ研修	11月15日頃 に当会ホーム ページ上に掲載 いたします	集合研修になり ます (開催要綱を ご確認ください)	当会ホーム ページにてご 確認ください。	20名 前後	会員 90,000円 非会員 140,000円 (分割可能)

お問い合わせ TEL 03-6824-9397 月～金 9:00～17:00

編集後記

季節は変わり、すっかり日足が短くなりました。1年前に比べ with コロナの生活にも慣れてきましたが、感染しない工夫をする生活は、まだまだ制限が多く残り、日々感じるストレスも少なくありません。私事です、最近、以前から好きだった作家さんの本を読み直す時間を作っています。その本を読んでいた頃を思い出しながら、もう一度読む本は、懐かしさとともに、以前読んだ時と違う見方ができることに気が付きました。この生活は、今までの生活を見直す良い機会なのかもしれません。(村田)

発行：公益社団法人 東京都介護福祉士会

発行責任者：永嶋昌樹

事務局：〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358 - 5

☎03 - 6824 - 9397 Fax03 - 5227 - 8631

E-mail address:tokaigo-post@bunken.co.jp

※掲載原稿、および写真の無断転用を禁じます。